

# マイクロチップの装着率が15.8%に上昇

■ペットショップでの装着が普及に一役

■一般の飼い主が装着に踏み切るには、さらなる啓発が必要

9月20日～26日の「動物愛護週間」にちなみ、アニコム損害保険株式会社（代表取締役社長：小森 伸昭）では、ペット保険の契約データの分析および契約者に対してインターネットを通じたアンケートを実施し、マイクロチップの装着率や飼い主の意識について調査を行いました。

## ■ペット保険契約者のマイクロチップ装着率は15.8%

アニコム損保のペット保険に契約しているどうぶつのマイクロチップ装着率15.8%で、昨年同時期の11.1%から上昇しました。（2010年8月20日現在）

### ●どうぶつ別マイクロチップ装着率

どうぶつ種	装着率 (%)	
	2009年	2010年
フェレット	24.3	25.9
犬	11.5	16.2
猫	7.8	11.9
うさぎ	0.1	0.0
平均	11.1	15.8

### ●犬種別マイクロチップ装着率

順位	犬種	装着率 (%)	
		2009年	2010年
1	チワワ	17.1	23.2
2	トイ・プードル	15.8	21.5
3	マルチーズ	14.5	18.9
4	ポメラニアン	13.3	18.7
5	パグ	12.8	17.5

※集計方法：アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」の契約計上済データ（313,216件）を集計。

## ■ペットショップの取組みが普及に貢献

マイクロチップを装着させている飼い主に理由を聞いたところ、「普段の生活での迷子対策」「災害時の迷子対策」との回答がそれぞれ半数を超えました。次いで「ペットショップで装着されていた」という回答が半数近くの47.6%あり、ペットショップの取組みが貢献していることがうかがえます。

また、マイクロチップを装着させていない理由では、54.8%の飼い主が「体内に異物を入れることに抵抗がある」と回答しており、マイクロチップが装着された状態で飼育を始めることが、マイクロチップ普及への近道であるようです。

マイクロチップを装着させている理由（複数回答）	人数（人）	割合（%）
普段の生活での迷子対策	288	58.1
災害時の迷子対策	252	50.8
ペットショップで装着されていた	236	47.6
獣医師にすすめられた	44	8.9
海外に行くために必要だった	24	4.8

※マイクロチップを「装着させている」496人の回答。

マイクロチップを装着させていない理由（複数回答）	人数（人）	割合（%）
体内に異物を入れることに抵抗がある	984	54.8
あまり必要性を感じない	587	32.7
読み取り器を設置している自治体、病院の数が多い	485	27.0
費用がかかる（高額である）	406	22.6
マイクロチップをよく知らない	299	16.7
装着方法（注射）に抵抗がある	212	11.8
登録などの手間がかかる	121	6.7

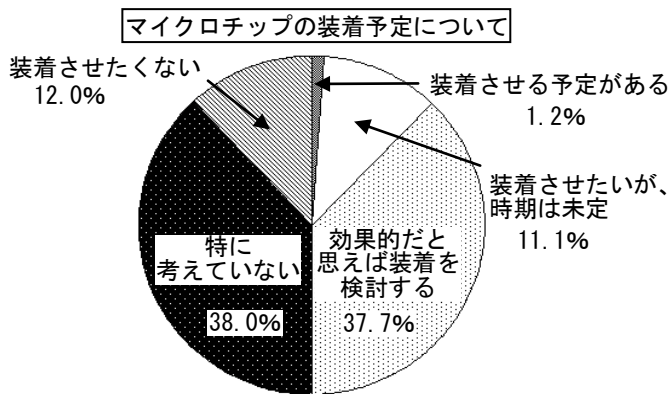
※マイクロチップを「装着させていない」1,764人の回答。

■78.1%がマイクロチップの効果を認識しているものの、普及には更なる啓発が必要

マイクロチップについてどの程度知っているかを聞いたところ、78.1%の飼い主が身元確認・迷子対策といった効果について認識していました。一方、形状や装着できる場所、装着方法や安全性などについて「知っている」と答えた飼い主はそれぞれ3割前後で、十分な情報を持っていないこともわかりました。

マイクロチップについて知っていること（複数回答）	人数（人）	割合（%）
マイクロチップ装着の効果（身元確認、迷子対策など）	1,820	78.1
マイクロチップが装着できる施設（動物病院）	898	38.5
マイクロチップの装着方法（注射）	891	38.2
マイクロチップの形状	874	37.5
マイクロチップの安全性	699	30.0
マイクロチップに登録される情報	690	29.6
マイクロチップの装着費用	557	23.9
どれも知らない	400	17.2

なお、今後のマイクロチップの装着予定については、37.7%の飼い主が「効果的だと思えば装着を検討する」と答えています。一方で、「特に考えていない」との回答も38.0%あり、既に飼育されているペットにマイクロチップを普及させるためには、安全性、効果など更なる情報の提供が必要だと言えそうです。



【調査方法】アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」契約者に対し、インターネット上でアンケートを実施

【実施期間】2010年8月5日～8月9日（有効回答数2,328）